

教科	地歴	科目	地理探究	単位数	3	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			選択

教科書	地理探究 (二宮書店)	副教材等	コンパクト地理総合地図(二宮書店)
-----	----------------	------	-------------------

1 学習の目標

地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/>	学びの価値を重んじる思考力	<input type="radio"/>	あきらめずに最後までやり通す忍耐力
	規律やルールを守り、目標を追求する行動力	<input type="radio"/>	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の概念や地域区分の意義、有用性を理解し、地域区分の方法を身につけている。 ●地域区分の学習を通して、現代世界の多様性・多面性について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●州や自然、文化、国家群などで地域を区分する方法を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 ●地域区分の概念、意義を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現代世界をいくつかの地域に区分する方法や、地域の概念、地域区分の意義、その有用性を基に、地域区分に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、かつ活用しようとしている。
評価の方法	定期考査 作業学習等の取り組み状況 その他課題	定期考査 作業学習等の取り組み状況 その他課題	ノート提出、他提出物 作業学習等の取り組み状況 平常点

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- ・授業を大切にしてください。欠席が重なったり作業を怠れば、授業についていけなくなってしまいます。教科書をしっかり読み、重要項目を整理することに努めてください。
- ・ペアワーク、グループワークも学習活動です。積極的に自分の考えを述べ、相手の考えを尊重しましょう。
- ・一生懸命がんばって取り組んでいる生徒は「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。不明な点や納得のいかない点があれば積極的に質問しましょう。
- ・定期考査は、教科書の記述を中心とする授業内容から出題されます。
- ・提出を指示された課題等は必ず提出してください。提出しなければ、評価の三観点すべてにおいて不利に働きます。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4月 ～ 5月	第II編現代世界の地誌的考察 ①中国 ②朝鮮半島	世界の大国としての中国について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。 隣国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	6月 ～ 7月	③東南アジア ④南アジア	経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題、地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを多彩な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の発展的变化や、それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。 近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後の発展や、それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	8月 ～ 9月	⑤西アジア・中央アジア ⑥北アフリカ・サブアフリカ	乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに基づく生活、言語・民族、資源を背景に発達した経済、地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。 広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
後期	10月	⑦ヨーロッパ ⑧ロシア	地域統合の進んだヨーロッパについて、EUとその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の変化や、日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。 世界最大の面積を持つロシアについて、自然と歴史的背景、民族、体制の転換と産業の変化、地域格差、交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・課題提出 ・定期考査	○	○	○
	11月	⑨アンゴラアメリカ ⑩ラテンアメリカ	広大な面積を持つアンゴラアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。 南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	12月	⑪オーストラリア ⑫ニュージーランド	南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。 日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	1月						

月							
2月							
3月							

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			選択

教科書	高校世界史 (山川出版社)	副教材等	なし
-----	------------------	------	----

1 学習の目標

- (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/>	学びの価値を重んじる思考力	<input type="radio"/>	あきらめずに最後までやり通す忍耐力
<input type="radio"/>	規律やルールを守り、目標を追求する行動力	<input type="radio"/>	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価の方法	・定期考査 ・作業学習等の取り組み状況 ・その他課題	・定期考査 ・作業学習等の取り組み状況 ・その他課題	・ノート等の提出物 ・作業学習等の取り組み状況 ・授業態度等の平常点

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- ・授業を大切にしてください。欠席が重なったり作業を怠れば、授業についていけなくなってしまいます。教科書をしっかり読み、歴史の流れ・つながりを理解し、重要項目を整理することに努めてください。
- ・ペアワーク、グループワークも学習活動です。積極的に自分の考えを述べ、相手の考えを尊重しましょう。
- ・一生懸命がんばって取り組んでいる生徒は「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。不明な点や納得のいかない点があれば積極的に質問しましょう。
- ・定期考査は、教科書の記述を中心とする授業内容から出題されます。歴史用語だけを暗記するのではなく、出来事の内容、原因・背景、結果・影響なども定期考査で出題されます。
- ・提出を指示された課題等は必ず提出してください。提出しなければ、評価の三観点すべてにおいて不利に働きます。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4	第1章 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農耕と牧畜の社会的影響を分析し、支配観念(王権)の成立要因を探究する。 ・ 各地域の神権政治の特色を分析し、王の存在意義を探究する。 ・ 各地域の神権政治の共通点・相違点を比較して、古代世界の神権政治の多様性を理解する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		○	○		○		
	5	第2章 1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 北方民族の活動と中国の分裂 4 東アジア文化圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央ユーラシアにおける騎馬遊牧民とオアシス民の生活・生業の特色を考察し、両者の関係を理解する。 ・ 中国における皇帝の政治を考察し、皇帝を頂点とする国家の社会・文化の特色を理解する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		○	○		○		
	6	●前期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北インド諸国家への仏教の受容、ヒンドゥー教の南アジアへの定着とその定着による文化・思想の変化を探究する。 ・ 海の道の政治的・文化的影響について探究し、東南アジアと「海の道」の関係を理解する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		第3章 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開			○	○	○
	7・8	第4章 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア世界 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西アジアにおいて、イラン系の人々が形成した国家や文化について探究する。 ・ 地中海世界の形成に大きな役割を果たした古代ギリシア・ローマの歴史的意義を考察する。 ・ キリスト教がローマ帝国の公認・国教となったことを考察する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		○	○		○		
	9	第5章 1 アラブの大征服とカリフ政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ イスラーム教の誕生と、その領域拡大の状況分析し、イスラーム教が社会をどのように変えたのかを探究する。 ・ キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界の形成の経緯を分析し、各国ごとの特徴を探究する。 ・ 西ヨーロッパ世界におけるローマ＝カトリック教会の影響について探究する。 ・ 東ヨーロッパではビザンツ帝国が衰退する一方、スラヴ人が独自の国家を形成したことを考察する。 ・ 14世紀以降、封建社会や教皇権が衰退に向かい、中世西ヨーロッパの枠組みに変化が訪れたことを考察する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		第6章 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向			○	○	○
後期	10	第7章 1 西ヨーロッパの封建社会 2 東ヨーロッパ世界 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 中世文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国周辺諸民族の侵入について考察するとともに、モンゴル帝国の拡大と影響について分析し、モンゴル帝国の歴史的意義を探究する。 ・ 明朝と周辺諸国との朝貢貿易や文化交流を考察する。 ・ ヨーロッパ人の海洋進出を機に「世界の一体化」が始まるとともに、アメリカ大陸の古代文明を征服して領域支配を進めていった状況を考察する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		○			○	○	
	11	第8章 1 宋とアジア諸地域の自立化 2 モンゴルの大帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国周辺諸民族の侵入について考察するとともに、モンゴル帝国の拡大と影響について分析し、モンゴル帝国の歴史的意義を探究する。 ・ 明朝と周辺諸国との朝貢貿易や文化交流を考察する。 ・ ヨーロッパ人の海洋進出を機に「世界の一体化」が始まるとともに、アメリカ大陸の古代文明を征服して領域支配を進めていった状況を考察する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		第9章 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容			○	○	○
	12・1	●後期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジアの諸帝国の統治の特徴や多様性を分析し、宗教政策や異民族政策の共通点や相違点について考察する。 	考査 ノート 課題等 態度等	○	○	○
		第10章 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域			○	○	○
2	●学年末考査			○	○	○	
3							

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度

教科	公民	科目	政治経済	単位数	3	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			必修

教科書	高等学校 政治経済 (数研出版)	副教材等	
-----	---------------------	------	--

1 学習の目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現実社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成させる。

2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/>	学びの価値を重んじる思考力		あきらめずに最後までやり通す忍耐力
<input type="radio"/>	規律やルールを守り、目標を追求する行動力	<input type="radio"/>	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	選択・判断の手がかりとなる概念や理論、および倫理、政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現代社会の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題が何かを探り、それらを主体的に解決しようとしている。多角的・多面的な考察や深い理解をしようとしている。
評価の方法	定期考査 授業内の課題 作業学習等の取り組み状況	定期考査 授業内の課題 作業学習等の取り組み状況 長期休暇の課題	定期考査 作業学習等の取り組み状況 ノート提出、他提出物 平常点

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- ・ 授業を大切にしてください。欠席が重なったり作業を怠れば、授業についていけなくなってしまいます。教科書をしっかり読み、現代社会のしくみや課題を理解し、重要項目を整理・把握することに努めてください。
- ・ ペアワーク、グループワークも学習活動です。積極的に自分の考えを述べ、相手の考えを尊重しましょう。
- ・ 公共の学習は、皆さんの生活と切り離されたものではありません。日常的に新聞やニュースに触れることで、社会の動きに目を向けることができます。
- ・ 定期考査は、教科書の記述を中心とする授業内容から出題されます。ただし、時事問題もあります。その他、考えて答える問題も定期考査では出題されます。
- ・ 提出を指示された課題等は必ず提出してください。提出しなければ、評価の三観点すべてにおいて不利に働きます。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4	第1章 現代の政治 第1節民主政治の基本原則と展開 1. 民主政治とその基本原則 2. 民主政治の展開 3. 政治体制の比較	・民主政治の基本原則として、絶対主義、自然権、社会契約、法の支配などの概念や、議会制や権力分立制などとの関連性について多面的・多角的に考察し、表現している。また、民主政治の本質の理解ができているか。	ノート 他課題	○	○	○
	5 ・ 6	第2節日本国憲法と基本的人権 1. 日本国憲法の基本的性格 2. 基本的人権の保障 3. 日本国憲法の平和主義 ●前期中間考査	・法や規範が何のために存在するのかをはじめとして、どのような法があるのか正しく知る。 ・その他、様々な権利や法の限界について考察する。 ・平和主義を理解しているか	ノート 他課題 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	7 ・ 8	第3節日本の政治機構 1. 国会のしくみと役割 2. 内閣と行政機関 3. 裁判所のしくみと人権保障 4. 地方自治のしくみと住民生活 ●前期期末考査	・議院内閣制における国会と内閣の関係で、国民の主権の下で、国民の意思を国政に反映させるため国会の立法権と内閣の行政権の適切な関係を理解しているか。 ・司法のしくみについて学ぶ。 ・当事者意識をもって司法を見つめる目を持つ。 ・地方自治を理解しているか	ノート 他課題 ノート 他課題 考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	9	第4節政治参加と民主政治の課題 1. 戦後政治と政党 2. 選挙制度のしくみ 3. 世論と情報化社会	・選挙の現状と課題、国会や内閣のしくみを学び、なぜ選挙に行くことが大切なのかを考える。 ・世論がどのように形成されているのかを理解する。	ノート 他課題	○	○	○
	10	2章 現代の経済 第1節経済活動の意義と経済体制 1. 資本主義経済の発展と変容	・資本主義経済の発展と変容について、現実社会の諸事象を通して理解をしようとしているか。	ノート 他課題	○	○	○
後期	11	第2節現代経済のしくみ 1. 市場経済のしくみ 2. 国民所得と経済成長 3. 金融のしくみと働き 4. 財政のしくみと租税	・経済主体である家計・企業・政府の役割を理解し、資源の分配、景気変動の調整、所得や資産分配の不平等を是正する役割を果たしていることを理解しているか。 ・市場経済における、経済活動と市場の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めているか。	ノート 他課題	○	○	○
	12	第3節日本経済と福祉の向上 1. 戦後日本経済のあゆみ 2. 中小企業と農業・食料 ●後期中間考査	・国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動について、理解しているか。 ・財政、租税、戦後の日本経済のあゆみを理解しているか。	ノート 他課題 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	1 ・ 2	3. 公害防止と環境保全 4. 消費者問題と消費者保護 5. 労使関係と労働市場 6. 少子高齢化社会と社会保障 ●学年末考査	・公害防止と環境保全について、現実社会の諸事象を通して理解しているか。 ・消費者問題と消費者保護について理解しているか。 ・労使関係と労働市場について、理解しているか。 ・少子高齢化について、理解しているか。	考査 ノート 他課題 考査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	3	第3章 現代の国際社会	・現在の国際社会がどのように形成されたのかを理解する。 ・今日の国際情勢について学び、今後の展望に対する関心を持つ。 ・時事的話題と授業内容を結びつけて思考を深め、身の回りの生活に対する影響を考える。	課題	○	○	○

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位数	履修年次	1年	2年	3年
					履修形態			選択

教科書	日本史探究 東京書籍	副教材等	特になし
-----	------------	------	------

1 学習の目標

日本列島の上に生きた人類の歴史を先史・古代から現代までを深く考察する事を目標とします。単に過去におきた事実を知り、暗記するということではなく、自分で過去の世界を探究して深く学ぶということです。この教科書を手がかりに人類の辿ってきた過去を考察・探究することによって、社会の仕組みをよりよいものにして未来をつくってゆくために各自考える礎を養うことを目標とします。

2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/>	学びの価値を重んじる思考力	<input type="radio"/>	あきらめずに最後までやり通す忍耐力
<input type="radio"/>	規律やルールを守り、目標を追求する行動力		多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・原始から現代の歴史の概要を理解しつつ、世界の歴史の流れの中で日本の歴史がどのように関わっているのか目を向けることができる。 ・様々な資料から歴史に関する情報を調べ、取捨選択してまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的なある事象について、他の事象と比較したり現代とのつながりを考えたりしながら考察することができる。またその内容を説明することができる。 ・教科書や他者の意見を理解しながら、自分の意見を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に取り組み、歴史的な出来事や史料等に積極的に理解しようと努力している。 ・自国及び他国の歴史や文化について理解を深め、互いの尊重に努めている。
評価の方法	定期考査 作業学習等の取り組み状況 その他課題	定期考査 作業学習等の取り組み状況 その他課題	ノート提出、他提出物 作業学習等の取り組み状況 平常点

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- ・授業を大切にしてください。欠席が重なったり作業を怠れば、授業についていけなくなってしまいます。教科書をしっかり読み、歴史の流れ・つながりを理解し、重要項目を整理することに努めてください。
- ・ペアワーク、グループワークも学習活動です。積極的に自分の考えを述べ、相手の考えを尊重しましょう。
- ・一生懸命がんばって取り組んでいる生徒は「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。不明な点や納得のいかない点があれば積極的に質問しましょう。
- ・定期考査は、教科書の記述を中心とする授業内容から出題されます。歴史用語だけを暗記するのではなく、出来事の内容、原因・背景、結果・影響なども定期考査で出題されます。
- ・提出を指示された課題等は必ず提出してください。提出しなければ、評価の三観点すべてにおいて不利に働きます。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点						
					①	②	③				
前期	4	第1編 先史・古代の日本 と東アジア	第1章先史社会の生活と文化 旧石器時代の日本	考査 ノート 他課題	○	○	○				
	5		縄文文化から弥生文化・小国家の形成 第2章歴史資料と先史古代の展望 第3章古代社会の形成と展開 1節律令国家の形成と古代文化の展開 大和王権・古墳文化から奈良時代まで 2節摂関政治と貴族文化								
	6		平安時代と国風文化 第1章中世世界の成立 朝廷政治の変容と武士の政治進出								
	7		第2章歴史資料と中世の展望 第3章中世社会の展開 1節武家政権の成立と朝廷 鎌倉幕府の成立・鎌倉の仏教と文化								
	8		2節武家支配の広がり と国際交流 南北朝の動乱から戦国時代・室町文化								
	9	各時代の流れを理解できたか。 疑問点や課題を解決できたか。									
	10	第3編 近世の日本と世界 第4編 近現代の地域・ 日本と世界	第1章均整社会の形成 地球的世界の形成と日本・織豊政権と桃山文化 第2章歴史資料と近世の展望 第3章近世社会の展開 1節幕藩体制の確立 江戸幕府の成立から幕藩体制の動揺					考査 ノート 他課題	○	○	○
	11		第1章近代社会の幕開け 開国・開港 明治維新 第2章歴史資料と近現代の展望 近現代社会の展望 1節近代制度の導入と新しい国際関係 2節国民国家と資本主義の成立 日清・日露戦争と立憲政治確立 3節両大戦間期の日本								
	12		重工業化・政党政治・デモクラシー・第一次世界大戦 4節第二次世界大戦と日本 昭和恐慌・中国侵略・戦時体制・終戦 5節占領と改革 6節国際社会への復帰と高度経済成長								
1	7節アジア情勢の変化と経済大国日本 8節新しい国際秩序と日本の課題 第4章現代日本の課題の探求										
2	家庭学習期間										
3	流れを理解できたか。課題に取り組めたか。										

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度

教科	地歴	科目	発展地理	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			選択

教科書	高等学校 地理総合 (第一学習社)	副教材等	コンパクト地理総合地図(二宮書店)
-----	----------------------	------	-------------------

1 学習の目標

地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/>	学びの価値を重んじる思考力	<input type="radio"/>	あきらめずに最後までやり通す忍耐力
<input type="radio"/>	規律やルールを守り、目標を追求する行動力	<input type="radio"/>	多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める
評価の方法	定期考査 作業学習等の取り組み状況 その他課題	定期考査 作業学習等の取り組み状況 その他課題	ノート提出、他提出物 作業学習等の取り組み状況 平常点

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- ・ 授業を大切にしてください。欠席が重なったり作業を怠れば、授業についていけなくなってしまいます。教科書をしっかり読み、重要項目を整理することに努めてください。
- ・ ペアワーク、グループワークも学習活動です。積極的に自分の考えを述べ、相手の考えを尊重しましょう。
- ・ 一生懸命がんばって取り組んでいる生徒は「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。不明な点や納得のいかない点があれば積極的に質問しましょう。
- ・ 定期考査は、教科書の記述を中心とする授業内容から出題されます。
- ・ 提出を指示された課題等は必ず提出してください。提出しなければ、評価の三観点すべてにおいて不利に働きます。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4月 ～ 5月	第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標(SDGs) ②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて	・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 ・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	6月 ～ 7月	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 ・グローバル化の中で、人・「モノ」・資本の国際移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	8月 ～ 9月	3節 自然と調和した豊かな社会に向けて ①技術革新と持続可能な産業化 ②限りある資源 ③エネルギー問題 ④都市・居住問題	・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 ・身の回りで見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
後期	10月	4節 現役世代と将来世代のための地球 5節 平和で公正な社会に向けて	・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・課題提出 ・定期考査	○	○	○
	11月	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 ①地球規模で見る地形の姿と自然災害 ②人々の暮らしを取りまく自然環境 ③変動帯の自然と防災 ④渾潤地域の自然と防災 ⑤私たちができる災害への備え	・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。 ・自然災害からの復興を困難にする複合災害について具体的な事例を通して理解し、これまで学んだ対策を組み合わせるために必要な行動について考察できている。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	12月	2章 生活圏の調査と地域の展望 ①地域調査の方法	・地域調査について、積極的な調査を実施でき、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。 ・地域調査を通して、地域のさまざまな事象に対し5W1Hの発問を設定して課題を抽出し、その解決策を提案し、共有する。	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査	○	○	○
	1月 ～ 2月						
	3月						

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度